

日本司法福祉学会 ニュース

————— No.32 名古屋大会特集

〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1 鈴鹿医療科学大学 藤原正範研究室気付
Tel: 059-383-9208 (内線2407) Fax: 059-383-9666

名古屋大会開催に当たって

日本司法福祉学会第14回全国大会（名古屋大会）実行委員長 山田麻紗子

名古屋の夏は蒸し暑いと嫌われがちですが、風物詩の一つに、名古屋場所のために来名したお相撲さんが街中を闊歩する姿があります。髷に浴衣姿は、実に粋なものです。

3年前の第11回に続き、第14回大会も名古屋で開催させていただきます。今回は会場となります日本福祉大学名古屋キャンパスの事情から、初日（3日）が名古屋駅近くの「ウインクあいち」、2日目（4日）が名古屋キャンパスと、2ヶ所での開催となりますので、何かとご不便をお掛けすることがあろうかと思えます。ただ、両場所とも名古屋駅からの利便性がよいのが、幸いです。現在、実行委員会に加えて、月1回の日本福祉大学内実行準備会を開催しながら、大会開催に向けた準備を進めております。

本大会にはNOFSWのバレリー副会長、第11回大会で記念講演をしてくださったバイオラさんをはじめとした4人のメンバーが来日され、「アメリカの司法ソーシャルワークの現状」について、少年事件、性犯罪、児童虐待などの分野での実践活動報告をしていただく予定です。また、大会シンポジウムは「起訴前審査と福祉の支援」のテーマで行います。最近広がり始めている刑事政策の新しい動きがどのようなものか、その実際と今後の展望や課題を明確にできる話し合いができればと望んでいます。

名古屋名物のひつまぶし、味噌煮込みうどん、暑い夏に相応しいスタミナ料理も盛りだくさんです。皆様のご参加を実行委員会委員一同、心よりお待ち申しております。



山田麻紗子実行委員長

日本司法福祉学会第14回全国大会

大会テーマ

ダイバージョン（非刑罰の手續）と福祉を考える

大会日程・会場

[1日目]

8月3日（土）ウインク愛知（名古屋市中村区名駅4-4-38）

午前9時30分～11時30分

愛知・岐阜・三重県社会福祉士会企画プレ・シンポジウム

「福祉支援と犯罪—福祉支援はいかにして犯罪に立ち向かうか—」

シンポジスト：河合由香（名古屋刑務所・精神保健福祉士）

廣田直美（障がい者総合相談支援センターそういん）

川島二三子（更生保護法人岡崎自啓会）ほか

コーディネーター：小野田正晴（三重県地域生活定着支援センター）

鷲野明美（日本福祉大学）

午後0時30分 全国大会開会

午後0時30分～0時40分 オープニング・セレモニー

午後0時40分～2時10分 NOFSWメンバーの講演

「ウィギンス判決とその後のアメリカの司法ソーシャルワーク」等

講師：NOFSW副会長 Valarie Mitchell さんほか

午後2時30分～5時30分 大会シンポジウム

「起訴前審査と福祉の支援」

シンポジスト：林 眞琴（最高検察庁総務部長）

田島良昭（南高愛隣会理事長）

野田正人（立命館大学）

水藤昌彦（山口県立大学）

コーディネーター：加藤幸雄（日本司法福祉学会会長）

[2日目]

8月4日（日）日本福祉大学名古屋キャンパス
（名古屋市中区千代田5-22-35）

午前9時30分～10時 総会

午前10時10分～12時10分 自由研究発表

午後1時～4時 分科会

NOFSW 第30回記念大会の参加報告

加藤幸雄

大会へは、加藤、生島浩、松友了、村尾泰弘、山田麻紗子の各学会員と通訳をお願いした浅野氏（日本福祉大学職員）およびが会員の岡部氏（別行動）が参加しました。

2013.4.13に時差16時間の現地に到着し、翌日の4:30からはWelcome Reception and Poster Presentationsがあり、開会冒頭に私たちのPanel Presentationsが行われました。加藤が日本の司法福祉学会といくつかの活動を紹介し、続いて村尾氏が「日本における刑事鑑定の現状」、山田氏が「名古屋市における児童虐待の現況」、そして生島氏が「東日本大震災、原発事故に関わるリスク・マネジメント」を、聴衆60-70人に対して報告しました。報告の後、裁判員の属性、虐待と嫉の異同等の質問がありました。続いて、30周年を記念して、Ira Neighbors氏の表彰と講演、およびKeynote AddressとしてDavid W Springer氏の報告がありました。氏は、少年の厳罰化に歯止めをかけ、子どもを救う可能性を高める戦略について話されました。

現地では、NOFSWの会長、事務局長から大いに歓待され、また、シアトルのあるキング郡の高等裁判所の見学をさせてもらうことができました。アメリカでは、法廷を中心としたSW活動が定着しており、少年司法、子ども虐待、高齢受刑者処遇、性犯罪者処遇等、FSWが積極的な役割を果たしていることがわかりました。

この夏の大会には、NOFSWのValarie Mitchell副会長を含む数人が参加し、レポートをしていただけることを確認しました。

— 生島 浩

— 松友 了

「東日本大震災・原発事故に関わるリスク・マネジメント——福島からの報告：非行・犯罪臨床の観点から」と題して報告した。その主旨は、普通に大学教員として研究生生活を送っていることを「身をもって」示すためであった。成人犯罪に関しては、福島市の更生保護施設の調査について、断水で困っていた近所の人が施設の風呂に入りきた、などのエピソードを紹介して、心配された犯罪者の「社会的排除」が出現しなかったことを強調した。また、少年非行についても、日本全体の減少率以上に福島では減少していること、しかしながら、「母子疎開」の長期化など家族機能の障害が顕在化・先鋭化していることの懸念を述べた。パワーポイントはもとより、口頭発表原稿も配布して英語力の問題はカバーしたつもりであったが、報告への「食いつき」はなく、準備に尽力しただけにやや残念であった。8月に来日される米国学会のメンバーとの「仕切り直し」を楽しみにしている。

3度目のシアトルは、初春の寒さの中で熱く盛り上がりました。3年前の大会（直前に、社会福祉士の資格を取得）は、ドタキャンで参加できず、今回は背水の陣の決意で参加しました。この分野では駆け出しながら、海外の刺激から知見を深めるというこれまでのやり方に従い、今回も無謀に飛び立ちました。そのため、発表の準備もなく、完全に受身の参加でした。しかし、結果としては、参加して本当に良かったという思いです。この分野の関わりを人生最後の仕事として選んだ私は、参加者からエネルギーをいただきました。もっとも印象的だったのは、裁判所の見学と裁判所の中での説明です。裁判への市民とソーシャルワーカー（SW）の関わりは、断片的には耳にしておりましたが、実際に目にした現場はかなり刺激的でした。SWとして検察庁で働くことになった身として、きわめて実践的な経験でした。また、日本から同行の諸先生からも多くをご教授いただきました。

— 村尾泰弘

— 山田麻紗子

私はNOFSWの記念すべき第30回大会（シアトル）で、「日本における刑事鑑定の現状——情状鑑定を中心に」というタイトルでスピーチをしてきました。スピーチの概要は、日本の刑事鑑定の実情と裁判員裁判の紹介、裁判員は陪審員と違って量刑の判断までしなければならないこと、裁判員は判例などを知らないことで量刑判断の科学的根拠を示す必要があるのではないか、そのためには、米国の判決前調査制度の導入が必要になるのではないか、といった内容でした。スピーチの最後に「米国の判決前調査制度と司法ソーシャルワーカーの活動から学ぶものは多いと考えている」と締めくくったところ、フロアからかなりの手応えを感じることが出来ました。渡米前は非常に緊張しましたが、NOFSW関係者から親切なもてなしを受け、私にとっては非常に意義深い学会参加となりました。関係者の方々にここから感謝申し上げます。

今大会は私にとって二度目の参加であった。「名古屋市における児童虐待事例の実態——重大児童虐待事例の特徴を探る調査から」というテーマで、発表させていただいた。これは2010年度（2010.4～2011.3）に名古屋市の2つ児童相談所が受理した児童虐待通告事例の内、リスクアセスメントでリスクが高いと判断された事例を対象として、虐待の状況、子ども、家族・家庭の状況、児童相談所の虐待への対応等を調査研究したものである。重大事例に対して児童相談所が子どもや親の支援に的確な対応を取れるように、その特徴を明らかにするのが目的であった。発表は時間の関係で虐待・子ども・親の状況、課題の一部だけの発表となったが、会場では複数の質問をいただいた。また、米国でも有数の児童虐待の専門家であるK.C.Faller氏（NOFSW会員）を紹介されたなど、得難い経験をすることができた。今後は視野を米国にも広げ、このテーマの研究を継続したいと思う意欲をいただいた。更に、3年前のアトランタ大会でお目にかかった方々に再会できたことは、何よりの感動だった。



NOFSWメンバーとの集合写真
（シアトル市ルネサンス・ホテルにて）

事務局からのお知らせ

本年4月15日、ゆうちょ銀行の学会名義口座に「(会費) 5,000円」を振り込まれた会員の氏名が確認できません（振込者名が「ハイセイニジウゴネント」と印字されているだけです）。心当たりの会員は、メールでお知らせください（f-seihan@suzuka-u.ac.jp）。

日本司法福祉学会 2012 年度決算報告
(2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)

(円)

	科 目	予 算	決 算
収入の部	211 年度より繰越金	1,155,169	1,155,169
	会費	2012 年度会費	1,400,000
		過年度会費	100,000
		入会金	40,000
		合計	1,540,000
	助成金・寄付	日立みらい財団助成金等	100,000
支出の部	その他	0	221,983
	合計	2,795,169	3,050,152
	事務局費	通信費	200,000
		管理労務費	200,000
		ニュースレター発行費	200,000
		会計監査費	80,000
		合計	680,000
	会議費	理事会費	300,000
		その他会議費	150,000
		合計	450,000
	全国大会費	実行委員会補助費	300,000
	学会誌編集費	編集委員会費	100,000
		生活書院編集委託費	600,000
		その他	20,000
		合計	720,000
	予備費	645,169	83,120
	合計	2,795,169	2,123,384

2013 年 3 月 31 日現在残高 926,768 円

2013 年 3 月 31 日現在の財産状況 (日本司法福祉学会)

1. ゆうちょ振替残高 117,660 円
 2. ゆうちょ銀行総合口座残高 785,133 円
 3. 現金 23,975 円
- 以上の合計額 926,768 円

適正な会計処理がなされていることを認めます。

2013 年 3 月 31 日

会計監査 佐々木光郎・八田次郎

日本司法福祉学会 2012 年度特別会計
(日本司法福祉学会国際交流基金) 報告

(円)

収入の部	国際犯罪学会第 16 回世界大会実行委員会からの余剰分配金	1,347,043
	受取利息	172
	合計	1,347,215
支出の部	NOFSW との交流のための文書の翻訳費用	
	NOFSW 会長への親書翻訳 (2012.4.16)	
	NOFSW シアトル大会の報告概要翻訳 (2012.10.22)	56,306
	名古屋大会への NOFSW 講師招聘依頼翻訳 (2013.2.21)	
	合計	56,306

残高 1,290,909 円 (ゆうちょ銀行残高)

適正な会計処理がなされていることを認めます。

2013 年 3 月 31 日

会計監査 佐々木光郎・八田次郎

日本司法福祉学会第 13 回全国大会 (東京大会)
財政報告

(円)

収入の部	学会会計より大会補助金	300,000
	東洋大学より補助金	300,000
	会員の参加費	389,000
	東京・千葉・埼玉県社会福祉士会会員の参加費	75,000
	非会員の参加費	266,000
	昼弁当代 (予約分)	49,000
支出の部	懇親会費 (予約分)	425,000
	受取利息	23
	合計	1,804,023
	大会準備費 (シンポ打ち合わせ参加者旅費)	141,060
	大会用物品購入費 (葉書・文具・名札等)	228,929
	大会用物品製作費 (看板・ポスター)	50,000
	大会用通信費 (切手・宅急便)	12,740
	大会宣伝費 (大会特集ニュース)	87,081
	抄録集製作費	136,710
	大会出演者謝礼等 (シンポ・分科会参加者旅費、謝礼)	68,380
	大会労務謝礼 (学生等アルバイト)	530,500
	昼弁当代 (予約分、実行委員用の弁当の業者への支払い)	114,365
	懇親会費用 (ケータリング業者への支払い)	400,840
	その他 (参加キャンセル者返金、反省会補助)	33,418
	合計	1,804,023

残高 0 円

適正な会計処理がなされていることを認めます。

2013 年 3 月 31 日

会計監査 佐々木光郎・八田次郎

日本司法福祉学会 2013 年度予算
(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

(円)

	科 目	2012 年予算	予算
収入の部	前年度より繰越金	1,155,169	926,768
	会費	2012 年度会費	1,400,000
		過年度会費	100,000
		入会金	40,000
		合計	1,540,000
	助成金・寄付	日立みらい財団助成金等	100,000
支出の部	その他	0	0
	合計	2,795,169	2,566,768
	事務局費	通信費	200,000
		管理労務費	200,000
		ニュースレター発行費	200,000
		会計監査費	80,000
		合計	680,000
	会議費	理事会費	300,000
		その他会議費	100,000
		合計	400,000
	全国大会費	実行委員会補助費	300,000
	学会誌編集費	編集委員会費	100,000
		生活書院編集委託費	600,000
		その他	20,000
		合計	720,000
	予備費	645,169	476,768
	合計	2,795,169	2,566,768

『子ども虐待防止世界会議 名古屋 2014』のお知らせ

国際子ども虐待防止学会 (ISPCAN) と日本子ども虐待防止学会 (JaSPCAN) は、第 20 回 ISPCAN 学術集会と第 20 回 JaSPCAN 学術集会の合同開催として、2014 年 9 月 14 日 (日) から 17 日 (水) までの 4 日間、名古屋国際会議場において『子ども虐待防止世界会議 名古屋 2014』を開催いたします。ご参加とご協力をお願い致します。

- * 会議名称: 『子ども虐待防止世界会議 名古屋 2014』
- * 開催期間: 2014 年 9 月 14 日 (日) ～ 9 月 17 日 (水) 4 日間
- * 開催場所: 名古屋国際会議場
- * メインテーマ
「子ども中心の社会に向けて: 過去から学び、未来に向けて行動しよう」

* サブテーマ

「子ども虐待に対応する社会制度の発展への挑戦」「世代間連鎖を断つ子どもと家族のケア」「妊娠期からの親子支援」「子ども虐待の予防と虐待の被害者の治療」「虐待対応に関わる機関・人材の育成」「災害の被害を受けた子どもたちのための社会制度の開発」

* 主催: 国際子ども虐待防止学会 (ISPCAN)

日本子ども虐待防止学会 (JaSPCAN)

* 後援: 厚生労働省、文部科学省、法務省、警察庁、愛知県、名古屋市
日本医師会等 (予定)* HP: <http://www.jaspcan.org/> <http://www.ispcancongress2014.org/>

* 寄付申込先 (Tel/Fax) 03-3440-2581